

愛 川 町 教 育 委 員 会

令 和 7 年 1 月 2 8 日

愛川町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 会議日程 令和 7 年 1 月 2 8 日（火）
午前 9 時 0 0 分から午前 1 0 時 0 1 分
- 2 会議場所 愛川町役場 2 0 1 会議室
- 3 議事日程 日程第 1 会議録の承認について
日程第 2 教育長報告事項について
(1) 教育長報告
日程第 3 令和 6 年度愛川町教育委員会表彰（随時）被表彰者の事績変更について【非公開】
日程第 4 令和 6 年度愛川町就学措置について
日程第 5 令和 7 年第 5 7 回愛川町十四歳立志式について
日程第 6 協議事項
(1) 卒業式・入学式「教育委員会のことば」について
日程第 7 その他
(1) 中学 2 年生職場体験の評価・反省について
(2) 市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について
- 4 出席委員 教 育 長 佐 藤 照 明
教育委員（教育長職務代理者） 齊 郷 浩 之
教育委員 梅 澤 秋 久
教育委員 篠 崎 美 和
教育委員 袖 山 浩 一
- 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 亀 井 敏 男
教育総務課長 宮 地 大 公
指導室長兼教育開発センター所長 瀧 喜 典

生涯学習課長

小 山 文 利

スポーツ・文化振興課長

井 上 守

教育総務課副主幹

前 田 幸 寛

◎開会

○（佐藤教育長） 皆さん、おはようございます。

改めまして新年おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席者は5人であります。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会1月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでありますから、ご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

○（佐藤教育長） 初めに、日程第1、会議録の承認についてを議題といたします。

12月の定例会、12月24日の開催分でございます。会議録につきましては事前に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑がありましたら、ご発言をお願いいたします。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） 特によろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） 特に質疑ありませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

日程第1、会議録の承認についてであります。本案を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1は原案のとおり承認されました。

なお、本定例会終了後に会議録署名原本をお回しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第2

○（佐藤教育長） 次に、日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

初めに、教育長報告について資料1に基づき、私から報告をさせていただきます。

令和6年12月24日から令和7年1月27日までの間に出席いたしました主な会議等について報告をいたします。

12月24日、教育委員会定例会。その後、教育委員会全員協議会。

25日、JICAの方が来室をされました。中津小学校のインクルーシブ教育の推進の報告をいつもしていただいているのですが、そのご報告に来ていただきました。また、社会教育委員会議の議長さんと、二井坂区長さんが年末のご挨拶に来られました。

26日、SC相模原の小西さんが、今年の試合結果の報告に来庁されました。また、半原水源地記録保存会の会議がございまして、参加をさせていただきました。

27日、町内の施設巡回ということで、年末でございましたので、次長、課長と一緒に公民館、体育施設等を回ってきました。

1月6日、仕事始め式、年始挨拶ということで、社会教育委員会議の議長さんがお見えになりました。

9日、愛川町議会全員協議会、議場にて町議会議長、町長の挨拶がございました。新春講演会ということで、今回は、小和田哲男さんが戦国大名の北条氏と相模の国に関するお話をしてくださいました。その後、商工団体賀詞交換会に参加をいたしました。

11日、消防出初式。

12日、午前に、新町発足70周年記念第70回愛川町一周駅伝競走大会、午後に、二十歳のつどいがございました。

14日、政策調整会議。夜になりますが、SC相模原の2025パートナーキックオフパーティーがレンブラントホテル海老名でございました。

15日、厚木警察署と県央愛川農協を訪問いたしまして、駅伝、そして二十歳のつどいのお礼に行ってきました。神奈川県教育委員会教育局の行政部長さんがお見えになられて、神奈川県の教職員の働き方改革について説明がございました。

16日、小・中学校校長会議。

18日、福祉団体合同新年賀詞交歓会がございました。

20日、行政経営会議。

21 日、民生委員児童委員協議会新年賀詞交歓会が旭屋でございました。

22 日、相談指導教室で今、不登校の子どもたちを対象にメタバースの研究をしております、横浜国大との連携事業なのですが、そのメタバースに子どもたちと一緒に参加をいたしました。来年度は不登校の子どもたちに限らず、少し対象を広げられたらいいかなというところで、さらに研究を進めていきたいというふうに考えております。

23、24 日、県町村教育長会の宿泊研究会がございまして、湯河原町に行ってまいりました。

25 日、町スポーツ協会賀詞交歓会が町文化会館で行われました。

26 日、青少年健全育成大会が町文化会館で行われました。

27 日、令和 7 年度の予算町長査定がございました。

主な内容は以上でございます。

それでは、これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑等がありましたら、お願いいたします。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) それでは、特に質疑ありませんので、教育長報告についてはご了承願います。

◎日程第 3

○(佐藤教育長) 続いて、日程第 3、議案第20号令和 6 年度愛川町教育委員会表彰(随時)被表彰者の事績変更についての審議を行いますが、本件については個人情報を取り扱う案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第 7 項の規定により、非公開による審議とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○(佐藤教育長) ご異議ないようでありますので、議案第20号につきましては非公開で審議をしたいと思います。

それでは、暫時休憩をいたします。

◎日程第 3【非公開】

◎日程第4

- （佐藤教育長） 次に、日程第4、議案第21号令和6年度愛川町就学措置についてを議題といたします。

それでは、内容について、議案に基づき担当から説明申し上げます。

指導室長。

- （瀧指導室長兼教育開発センター所長） 指導室長です。

では、議案第21号令和6年度愛川町就学措置についてご報告いたします。

1枚おめくりください。1、概略についてでございます。

今年度の4月の定例会におきまして、愛川町教育支援についてご協議をいただき、令和7年度分の就学で対応した件でございます。

概略につきましては、この資料にありますように、年度当初3回の計画でございましたけれども、臨時の委員会1回を加えまして全部で4回の開催といたしました。

審議対象の子どもたちの総数は79名、教育支援委員会の答申を受けまして、保護者との合意形成を図ってございます。

詳細については、資料の中段以下になります2の表をご覧ください。表のほうは小・中学校別の表となっております。

説明は以上です。

- （佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

梅澤委員。

- （梅澤委員） 中学校、教育支援委員会答申では通常学級2名のところが就学措置3名、反対に、特別支援学級（知的）が17名のところが16名。答申との違いというのは、やはり保護者の要望ということでしょうか。

- （瀧指導室長兼教育開発センター所長） そうですね。保護者のお気持ちの中でということとなっております。

- （梅澤委員） ちなみにこの生徒さんは、小学校段階ではどの種の学級にいらっしゃったのか、分かれば教えてください。

- （瀧指導室長兼教育開発センター所長） 手持ちの資料がなく、いますぐにお答えできないのですが。申し訳ございません。

- （梅澤委員） 分かりました。
- （佐藤教育長） よろしいですか。
- （梅澤委員） はい。
- （佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

ここのところの傾向としては、新就学児の人数が増えてきていることがあげられます。小学校1年生については、保育園、幼稚園から相談が出てきて、それでこの会議にかけているのですが、傾向としては早い段階から支援に入るケースが増えてきているというのは、今傾向としては出ています。

（「よろしいですか」との声あり）

- （佐藤教育長） 梅澤委員。
- （梅澤委員） 早い段階から適切な特別支援教育を施すことは、その子のその後にプラスの影響になると思われますので、いい傾向かなというふうに思っています。やはり丁寧に指導していただきたいと思います。
- （佐藤教育長） 瀧指導室長、何かありますか。
- （瀧指導室長兼教育開発センター所長） 今、小学校1年生に入学するお子さんについて述べられましたが、支援級に入って適切な指導をとることになっております。インクルーシブという考え方ももちろんございますけれども、教育支援委員会でこのような判断をして、子どもに一番適したということで今考えておりますので、インクルーシブという観点も置きながら、子どもの育ちの場を決めていくという形になっております。

以上です。

- （佐藤教育長） 他にございますか。
齊郷委員、何かございますか。
- （齊郷委員） 最近、私の幼稚園でも、いろいろな環境を整備するんですよ。ただ、個別の指導が良いお子さんに対して、幼稚園というのは集団生活の中なので、どうしてもそこまで手が回っていかない現状があります。

幼児期は学び方を学ぶ時期ということで、これをしちゃいけないとか、あれはもうちょっと我慢しようねということを集団生活で学ぶこともあるのですが、発達に課題があるお子さんは感情が先に出てしまう傾向にあります。その傾向を把握しつつ、どうするかということとは、やっぱり一人一人の個性に応じた対応をしなきゃいけないのですが、それもなかなか難しい。

このような現状に対して、幼稚園と小学校で連携して、小学校の方でも継続してよろしく
願いますということをやっぱりちゃんとしていかないと、今後ますます課題が増えると思
っております。私の幼稚園の年長組も来年度小学校に上がるので、どうぞよろしくお願い
したいということを思っております。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 学校視察をしていても、本町の学校はほとんど学習室化していると思うん
です。というのは完全に分断せずに国語とか算数とか、その子に応じて個別に配慮すべき教科
のみ分けて指導する傾向が高いと私は判断しております。

先ほど室長がおっしゃったインクルーシブで進めていく効果につきまして、どうしても個
別に指導した方が効果的な内容については、個別支援する場所があるという形で進んでいる
と思います。また、反対に特別支援学級在籍になったお子さんが普通学級に入って共に学ぶ
場合は、そこに特別支援学級からの教員等が加わり、複数の大人で指導できるというプラス
もありますので、この手厚さを上手に活用してはどうかと思います。

○（佐藤教育長） 他にございますか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） 他に質疑等がございませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

議案第 21 号令和 6 年度愛川町就学措置について、本案を原案のとおり決することにご異
議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、議案第 21 号は原案のとおり承認されました。

◎日程第 5

○（佐藤教育長） 次に、日程第 5、議案第 22 号令和 7 年第 57 回愛川町十四歳立志式について
を議題といたします。

それでは、内容について、議案に基づき担当からご説明申し上げます。

生涯学習課長。

○（小山生涯学習課長） 生涯学習課長です。

まず初めに、先日の二十歳のつどいにつきましては、無事に開催することができました。
皆様には、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、議案第 22 号令和 7 年第 57 回愛川町十四歳立志式についてご説明いたします。

1 ページおめくりいただき、開催要項をご覧ください。

1 番の目的についてであります。将来の自分を考え、目標を持って生きる生徒の育成を図るとともに、将来の愛川町を担っていく青少年の健全育成を推進することとしております。

2 番の開催日時につきましては、中学校卒業式の翌日、3 月 13 日木曜日、午前 9 時半開式としております。

3 番の会場は町文化会館ホールとし、3 中学校の 2 年生が一堂に集まる形で開催いたします。

6 の内容についてであります。式典の次第 5 のわたしたちの誓いは、事前に撮影してまとめた動画を流します。

講演の講師につきましては、昨年度に引き続き、北極冒険家の荻田泰永さんに依頼をしております。

ご挨拶をいただく教育長、中学校長会会長、町長の 3 名には登壇いただき、そのほかの主催者や来賓の皆様は客席にご案内いたします。

教育委員の皆様には、2 月の定例会議終了後に改めて出欠の確認をさせていただきます。

説明は以上です。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） 立志式ですが、3 月に動いているのは 2 年生の授業の関係で、この時期だと少し余裕があるというのと、それからもう一つは風邪の時期、インフルエンザが流行する時期でやはり避けたいという意向があったためです。

何か質問はございますか。

○（袖山委員） 事前に、意義について説明してもらっていると思いますので、ただただ集まって楽しくというよりは、その意義を理解してくればいいかなと思います。

○（佐藤教育長） そうですね。実は立志式自体をやっているところが、教育委員会としてやっているところは本町だけで、学校が主体でやっているのは大井町です。こういう形で取り組んでいるところというのは少なくなっているのですが、そういう中で学校にも無理がないような形で簡素化されてきているというところはありますけれども、今、袖山委員さんが言われるように、趣旨だけはしっかりと押さえながら取り組んでいけたらいいかなと思ってお

ります。

では、特に質問はよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) それでは、特に質問ありませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

議案第 22 号令和 7 年第 57 回愛川町十四歳立志式について、本案を原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○(佐藤教育長) ご異議ないものと認めます。

よって、議案第 22 号は原案のとおり承認されました。

◎日程第 6

○(佐藤教育長) 次に、日程第 6、協議事項を議題といたします。

初めに、卒業式・入学式「教育委員会のことば」について、資料 2 に基づき担当からご説明申し上げます。

指導室長。

○(瀧指導室長兼教育開発センター所長) 指導室長です。

それでは、資料 2 をご覧ください。4 枚つづりになっているものでございます。

最初の 2 枚が卒業式の際の「教育委員会のことば」になります。1 枚目が小学校、2 枚目が中学校。それから、3 枚目、4 枚目がそれぞれ入学式の際の「教育委員会のことば」となっております。

昨年度ご指摘いただいた点は、外国につながるのあるお子さんやご家庭に読んでいただくための工夫として、3 枚目の小学校入学式の教育委員会のことばにおいて、昨年度と同様、保護者の皆さんにご自身でスマートフォンなどの翻訳機能というのを使っていただく形になるように、あえてルビを振らずに平仮名表記ということでさせていただいております。あわせて、新入学児童向けとその保護者向けの 2 段構成という形で、昨年度と同様の形で作成しております。

主な変更点は、小学校の入学式のことばの中で、5 行目になりますけれども、「優しい上級生」という表記にした点です。昨年度「お兄さん、お姉さん」という言葉を使っていた、まずこの順番がどうなのかということと、それからお兄さんとお姉さんというジェンダーの関係ですね。その部分がちょっと指導室のほうで、議題にあがりまして、その部分を

「上級生」という形で変えさせていただいております。それ以外の資料に関しては、今までの言葉を参考にしながら作成している形になっております。

この形式でいかせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

以上です。

○（佐藤教育長） それでは、ご質疑等がありましたら、お願いいたします。

篠崎委員。

○（篠崎委員） すみません。やはり今のおいおいのことばの小学校1年生のところですね。

毎年あれこれ、ご提案をされていてすみません。毎年すごくよくなっていて、子どもたちが読みやすくなっております。

言葉ごとに区切っていただいて読みやすくなっていると思うのですが、例えば4行目ですか、「せいかつ」の行について、単語が2行に分かれていて、平仮名を覚えてたの子どもたちにとってはちょっと難しいかもしれません。同様に、9行目ですね。「そして」の接続詞とかも2行に分かれていて、その次の行の「たのしい」も行をまたいでいるので、もしよければ、単語は、行で分けずに、同じ行で一つにまとめていただいたほうが読みやすいかなというふうに思いました。

もう1点あるのですが、1年生向けの言葉を、保護者向けに表現をそのまま漢字にして載せていただいているのですけれども、「みなさんの せいちょうを おいのりしています」という表現は、1年生にはちょっとまだ難しいかなという気がします。もしよろしければ、上には1年生に向けた言葉、下には保護者向けに1年生向けとは違う文章表現を載せてもいいかなというふうに私個人は感じました。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） 指導室長です。

行の切り替えの部分、調整をしてみたいと思います。

最後の成長をお祈りしておりますという部分ですけれども、保護者向けに関しましては、少しその部分プラス、保護者の皆様に心からお祝いを申し上げますということで付け加えさせていただいている形ですけれども、いかがでしょうか。小学校1年生向けに「せいちょうを おいのりしています」という表記はやはり分かりづらいでしょうか。

○（佐藤教育長） 袖山委員、どうでしょうか。

○（袖山委員） 「せいちょうを おいのりしています」という言葉、多分、小学生に上がる子はそういう観点はあまりないのかなとは、僕もちょっと気にはなったんですけれども…。

皆さんの頑張りをみたいな、皆さん頑張ってくださいねのような感じでもいいのかなという気は少しします。もしくは、なくてもいいかなぐらいの感じですかね。どうでしょうか。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） ちょっと言葉が難しい、堅苦しいような感じもありますので、子ども向けの文章で、「みなさんの せいちょうを おいのりしています」の部分が、特になくて通じるならば、ここの部分を削ってしまってもいいのかなと今思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

○（佐藤教育長） どうですか、皆さん。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） 過去の文章では、皆さんの成長をお祈りするとともに、保護者向けの部分も併せて送っているの、その言葉が入ってしまっています。

去年は2つに分けて、この言葉を子ども向けにも残してはあるんですけども、今までは、子どもと保護者と交ざったような文章で一昨年までは来ていますので、そういうちょっと硬い文章も残っていたという。子どもだけのメッセージであれば、なくてもいいかもしれないという状況です。

○（佐藤教育長） これ、もともとが教育委員会のことばというのは、子どもと保護者宛て両方に読んでもらうということをつくってあったんですよ。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） はい。

○（佐藤教育長） それを外国につながるのあるお子さんたちやご家庭もいるので、平仮名でルビつけないで1個つくろうということだったよね。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） そうです。

○（篠崎委員） すみません。その他にやっぱり平仮名を覚えた子どもたちに、自分たちで読んでほしくて、優しい言葉で平仮名にしてあげてくださいというふうには過去に申し上げました。

○（佐藤教育長） そうですね。自分で読めるようにね。平仮名だと読めるということはありませんね。

○（齊郷委員） 分かる子は分かるけれども、分からない子は、「えっ？」となるのでしょうか…。多分ここにこう書いてあるとどういう意味だろうと調べるきっかけにはなるかなと。そうすると、このお祝いの言葉は、教育委員会の方が子どもたちにこういった気持ちを伝えているということが子どもたちが読んだときに、新しい言葉をちょっと見たら、こんな意味があるんだということを、保護者に聞いたりする意味では、入学式のときに、こういう言葉

を自分たちのために書いてくれているんだということがもし分かるのだったら、残してもいいのではないかなという気はします。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） 他にご意見いかがでしょうか。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 今の件はあってもいいのかなと思います。完全に分からなくてもいいんです。というのは、小学校1年生で初めて平仮名を習うというのが国のカリキュラムですので、読める子がたまたま読んでいるだけと解釈すれば、あってもいいのかなと。

今、齊郷委員がおっしゃったとおりで、分からない子が調べたり、あるいは保護者と会話するきっかけになったりすれば、それはそれでいいのかなというふうに思いますので、残すほうに私は賛成したいと思います。

それ以外にもう1点よろしいでしょうか。

○（佐藤教育長） はい。どうぞ、お願いします。

○（梅澤委員） その小学校1年生の入学のルビなしはよかった対応かなと思っています。保護者にここはお任せという形で、いろいろな言語の翻訳を入れることも、指導室が大変だというご意見もありましたので、大人向けと子ども向けの区分けはよかったと思っています。

別途、1ページ目の小学校卒業式の上から6行目、「皆さん一人ひとりに」という文なのですが、この一文に「皆さん」がもう一回出てくるんですよ。なので、最初の「皆さん」はカットでどうでしょうか。

いきなり「一人ひとりに渡された卒業証書には」というのが少し違和感を覚えるのであれば、「本日」という言葉を入れてもいいのかなと思うのですが、そうすると実は一番下から2行目に「今日の門出」という、「今日」という言葉が出てくるので、ここで表記の揺れが生まれるんですけれども、一方で先ほどのところを、「今日一人ひとりに渡された卒業証書」だと少し据わりの悪い文章になるかなと思われまますので、この6行目の「皆さん」はカットでもいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○（佐藤教育長） どうでしょう。皆さん、いかがでしょうか。

カットでも支障がないですね。確かに皆さんで重複していますね。

○（梅澤委員） 改行して1マス空けて、一人ひとりからスタートしても問題ないかと思うので。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） ありがとうございます。

では、6行目の「皆さん」のほうをカットさせていただきます。

（「では、もう一つ」との声あり）

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 2ページ目、中学校卒業式です。

3つ目の段落の3行目、「異なる文化や価値観をもつ世界の人たちと対話し、他者と協働しながら」、悪くはないのですが、この多様な価値観を持つ世界の人たちと他者は同じなのか違うのかというところで、後半の「他者と」が要るか要らないかが少し分かれるかなというふうに思います。いかがでしょうか。

つまり「世界の人たちと対話し、協働しながら」でも文は通ると思うんですね。人を表す表現が近々で2個並んでいるのが少し、もやっとするのが何か正直なところですよ。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） ないほうがすっきりしますね、確かに。ありがとうございます。では、「他者と」のこの3文字を削りたいと思います。

○（梅澤委員） はい。

○（佐藤教育長） では、今のところについては、カットをするということでよろしいでしょうか。

それから、先ほどの件に戻りますけれども、「みなさんの せいちょうを おいのりしています」は、残すということよろしいですか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） では、そういう形でお願いしたいと思います。

他にございませんか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

それでは、他に質疑はありませんので、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についてはご了承願います。

◎日程第7

○（佐藤教育長） 次に、日程第7、その他を議題といたします。

中学2年生職場体験の評価・反省について、資料3に基づき担当から説明申し上げます。
指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） 指導室長です。

それでは、続いて、資料3をご覧ください。

令和6年度中学校2年生職場体験の評価・反省についてであります。

昨年度に引き続き今年度も事業所での体験を実施することができました。こちらのアンケートの概要に沿ってご説明させていただきます。めくっていただきますとグラフも添付しておりますので、一緒にご覧ください。

最初に、生徒アンケートについてでございますけれども、肯定的な回答が多かったです。「自分から進んで仕事に取り組めた」、「自分の課題解決やねらいが達成できた」、「働くということについて考えることができた」などの回答が96%以上で、進んで仕事に向かうことができたようでした。また、「自分の将来について考えることができた」の項目では、85.3%の生徒が肯定的な回答で、キャリア教育の観点からも貴重な機会となりました。

次に、2番、保護者アンケートについてです。多くの保護者が「機会があればまた参加させたい」と回答しております。生徒自身の充実感、家庭での会話の増加、事業所が協力してくれたことへの感謝の意見が寄せられておりました。期間や回数が増えることへの期待の意見もございました。

続いて、3番、事業所のアンケートになります。こちらでも概ね肯定的な評価でございました。生徒の積極性に関しては、「非常によく頑張っていた」、「真面目に取り組んでいた」、「自ら質問する姿勢があれば、なおよくなると思う」という意見や、「慣れてきてからは質問することが増えるなどしてよかった」などというように活動する中で成長が見られた意見なども様々ありました。職場体験の前後で生徒にとって成長のきっかけとなり、実践の難しさを生徒自身が感じながら次につながるきっかけとなったようです。

4番、最後に教員のアンケートです。「進路や生き方への関心」、「職業や仕事への関心」の項目がいずれも94.7%で、職場体験学習全体として成果が見られたという評価があります。それから、体験先の確保についての課題についての意見もありました。引き続き、体験先の確保に努めてまいりたいと思っています。

次のページをご覧ください。

職場体験後の担当職員検討会議をまとめております。次年度に向けての評価・検討を行いましたので、ご覧いただければと思います。

昨年と同様に事業所での職場体験を実施することができ、中学生にとって貴重な体験の機会となりました。今年度の反省を生かしながら、今後も職場体験学習の狙いに沿った事業の

展開に努めてまいりたいと考えております。

なお、事業所へお届けする職場体験に行った感想集につきましては、現在作成中でありますので、完成しましたら、教育委員さんのお手元にも一部ずつお届けさせていただきたいと考えております。

説明は以上です。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

袖山委員。

○（袖山委員） 分かれば教えていただきたいのですが、登録している事業所というのは、幾つぐらいあるんですか。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） 今回、実際に行った事業所自体は 84 か所になっております。登録となりますと、100 前後あります。

ただその年によって、生徒の受入れは難しいよだとかそういった回答もありますので、できるだけ登録していただいた事業所さんには声をかけて、いいよと言ってくれた事業所さんには行くようにはしているんですけども、全てに行けるかどうかというような状況です。

○（袖山委員） 事務所の登録というか、事業所の選定はどのように行っているのですか。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） 事業所につきましては、今まで前年度に行ったところにまずお声がけさせていただいて、次年度どうですかというところでまず回答をいただいています。

その中で、先ほどの検討会議での反省にもあったのですけれども、事業所の拡大、それからこんな事業所も欲しいなという意見も出ていますので、それに合わせた形で学校と協議しながら、少しお声がけをする場合もございます。ただお声がけして人数的に行けない場合もありますので、その場合があるということを考慮しながら、人数的にバランスを取ってお声がけをしていく、お願いをしていくという形になります。

以上です。

○（佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

梅澤委員。

○（梅澤委員） とても大変な事業の運営、本当にお疲れさまであります。

今、事業所の拡大という話がありましたが、恐らく、多くの事業所で人手不足なのかなというふうに推察をしています。なので、事業所に本事業を売り込む際に、例えば、中学生が高校生になったときにアルバイト等などの縁につながるかもしれませんよ、地元の中学生ばかりなので、というメリットをお伝えいただけると、事業所も生徒・学校も町教育委員会もwin-winの関係が作りやすいのかなというふうに思いながらお聞きをしていました。

あと、事務局の大変さも想像できますので、例えばこのアンケートをグーグルのフォームとかで集計をしていますでしょうか。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） アンケートについて検討会議で話が出ました。次年度は、今、紙で行っているものと、フォーム等で学校によっては少しやっているんですけども、もう統一して次年度はフォームでやっていこうかという話が出ております。その方向になると思います。

○（梅澤委員） 今年までお疲れさまでした。

○（佐藤教育長） ぜひそれはもうぜひ使っていただいて、フォームでやっていただくのがいいと思いますから。

他にいかがでしょうか。

篠崎委員。

○（篠崎委員） すみません。保護者向けアンケートの「職場体験のような機会があれば、また参加させたいと思いますか」のところで、やはり 88.5%の保護者の方がまた参加させたいと思っています。保護者代表として、私も同じ気持ちだよというのをちょっと伝えたいなと思ひまして。なかなか実施は難しいとは思いますが、今、3日間でしたっけ。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長） 2日間です。

○（篠崎委員） ああ、2日間ですね。そうすると、やっぱり最初は人見知りしがちな子は慣れないし、最後は何かもう、ああ最後、終わりだわみたいな感じで、2日間だとなじめないまま、本領を発揮できないまま終わってしまいそうな様子なんですよね。

なので、可能・不可能は別として、できれば1年生のときにも同様の機会があって、2年生のときにも同じ機会があるとか、そういう2回ぐらいできたら、やりたかった職場や職種へ行けなかったわという子にも何か対応できそうだし、色々ないい経験にもなるのかなというような意見を保護者としては私も思っていますということをお伝えしたいと思います。

以上です。

○（佐藤教育長）　そうですね、1回では難しいこともありますよね。以前、国の指定を受けたときは、何日間の実施でしたか。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長）　最初ですか。

○（佐藤教育長）　最初です。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長）　最初は5日間ですね。

○（佐藤教育長）　最初は5日間でしたね。それが3日になり、今は2日になったのですね。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長）　はい。

○（篠崎委員）　たしか私の長女のときは3日間だったようなイメージがして、下の子はそういえば2日間だったんじゃないかという気がしないでもないんですけども、ちょっと曖昧で申し訳ないんですけども。子どもたちは、最初は本当にもうなじむだけで精いっぱい。1日目、そんな感じだと思うんですね。なので、できれば少し長ければ。

それか、いろんな職種を体験したいという気持ち、子どもたちの気持ちを酌んであげて、1年生のときにもちょっと、2年生のときにもちょっと体験できるというふうにできれば本当はいいのではないかなと思いますね。将来、自分にはどのような仕事が向いているのかなというのを直接体験しながら考えられ、それから、愛川町の人と直接触れ合える機会という貴重な体験だと思いますので、本当にいいことだなと思います。

○（佐藤教育長）　実際、第1希望から第3希望まで、職場体験先の希望を取っているようですけども、第1希望先に行ける子どもは非常に少ないみたいです。ですから、そういう機会が本当にもうちょっとあると子どもたちにとってもいいかなというふうに思います。ですが、学校の授業との関係もあるので、何か工夫して、夏休みに希望者だけやるとか、そういうのもありかななんて、今話を聞いていて思ったんですけども。

瀧所長、本件について、学校と会議する場はありますか。

○（瀧指導室長兼教育開発センター所長）　そうですね、年間2回、学校と会議はしておりますので、また、次年度6月頃に職場体験の1回目の会議でご意見として提案していきたいと思います。

○（佐藤教育長）　他にいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長）　それでは、他に質疑ありませんので、中学2年生職場体験の評価・反省についてはご了承願います。

次に、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について、資料に基づいて担当からご報告申し上げます。

スポーツ・文化振興課長。

○（井上スポーツ・文化振興課長） スポーツ・文化振興課です。

それでは、その他、（２）市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について、資料４をご覧ください。

第 79 回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について、説明とご案内をさせていただきます。

期日は２月９日日曜日、会場は山北町丹沢湖周回コース、７区間、約 42.2 キロのコースとなっております。スタート時間は午前 10 時、フィニッシュの予定は午後零時 10 分頃の予定となっております。

資料の裏面が会場となります丹沢湖周辺コースでございます。そして、資料の２枚目、３枚目は、実施要項となっております。こちらのほうは後ほどご覧いただければと思います。

そして、資料の４枚目、愛川町選手団の名簿であります。

昨年、町村の部２連覇、総合７位入賞を果たしたメンバーを中心に 12 名が選出をされております。大学生には、今年の箱根駅伝に出場した神奈川大学の西坂昂也選手や、前回大会で女子区間の区間賞、昨年の全日本大学女子駅伝では第３区で、４位の拓殖大学の新井沙希選手など、力のある選手もそろっておりますので、町村の部３連覇、さらには総合順位では前回を上回ることも期待できるところでございます。

教育委員の皆様におかれましては、ぜひ応援のほうよろしくをお願いいたします。

簡単ではございますが、「かながわ駅伝」競走大会の説明とご案内につきましては以上です。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑ありましたら、ご発言のほうお願いいたします。

篠崎委員。

○（篠崎委員） すみません。ちょっと話がそれるのかもしれないのですが、先日の町一周駅伝大会のときに、梅澤委員にある駅伝選手から交通費の話があったじゃないですか。これはかながわ駅伝に町選手団として出てくださる方々には、交通費とか謝礼とか出ているのでしょうか。

○（井上スポーツ・文化振興課長） 交通費や謝礼は出ておりません。愛川町に集まっていた

だいて、愛川町からマイクロバスで丹沢湖に行くというところではあるのですが、愛川町に来ていただくまでの交通費とかというのは、今現在はお支払いはしていません。

○（篠崎委員） 分かりました。

あと、これは当日会って、初めましてのチームで走る感じですか。それとも練習などはあるのですか。

○（佐藤教育長） どうぞ。

○（井上スポーツ・文化振興課長） 2月9日が本番になりますが、2月4日に結団式ということで、顔合わせをさせていただいております。事前に各自練習等はしておりまして、愛甲郡陸協のほうでも集まれる選手は集まっていたいて、合同で練習というのもしているということでした。

以上です。

○（篠崎委員） ありがとうございます。

町一周駅伝のときの練習などもそうなのですが、皆さん仕事などで愛川町を離れてご活躍されている方がたくさんいらっしゃると思いますので、練習に来ていただくときの交通費も本番の交通費も、ご本人たちにとっては大変な出費になると伺っています。町を盛り上げていただくために参加していただいているので、この際少し何か援助してあげられたらいいかなと思いますので、検討いただければと思っております。

以上です。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 私がそれをある駅伝選手から懇願されていたのを、篠崎委員からご提案いただきありがとうございます。

交通費等で往復3万円以上かかる選手もいると、リアルな話を先日聞きました。全額出してもらわなくてもいいんですが…とも話されています。

これを町の予算で出すのはなかなか難しいのかもしれないんだけど、例えば協賛、要するにこの大会をバックアップしている企業さんであるとか、何がしかの団体から一部なり補助なり工面ができないかどうか。当然ながらここで愛川町の「かながわ駅伝」競走大会、教育委員会を挙げてこうやって話をしているわけなので、ここで何がしかのそういう予算立てをできるのが一番いいのかなと思いますが、本当に難しいのは承知をしながらも、ぜひ篠崎委員同様ご検討いただければ、より一層町が盛り上がるのかなと思います。よろしくお願いいたします。

○（佐藤教育長） スポーツ・文化振興課長。

○（井上スポーツ・文化振興課長） そうですね。移動の交通費に関して、今、梅澤委員言われたとおり、遠くから愛川町のほうに町の代表として来ていただけるというところはあると思いますので、その辺りの実情を、郡陸協のほうともしっかり話をさせていただいて、どういう方法があるかということも含めて検討させていただきたいと思います。

○（佐藤教育長） では、今の話については、前向きに検討をしていただけたらというふうに思います。

他にいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） では、他にないようでございますので、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会についてはご了承願います。

◎閉会

○（佐藤教育長） 本日の案件につきましては全て終了いたしましたけれども、何かそのほか各委員からご意見等がありましたら、お願いいたします。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

特にございませんので、事務局から何かございますでしょうか。

（「事務局からは特にありません」との声あり）

○（佐藤教育長） それでは、特にないようですので、以上で1月の定例会の議事日程が全て終了いたしましたので、閉会したいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、1月の定例会を閉会といたします。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

なお、次回の定例教育委員会でございますけれども、2月25日の9時から201会議室で開催しますので、よろしくお願いいたします。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

令和7年2月25日

教育委員会教育長

佐藤照明

教育委員会

教育長職務代理者

(欠席)

教育委員

篠崎美和

教育委員

(欠席)

教育委員

袖山 浩一

調整職員

池村茉莉子